

令和6年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会 会議録

日時：令和6年7月26日（金）13:30～15:30

場所：久慈地区合同庁舎6階大会議室

1 開会

【似内副局長】

ただいまから令和6年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会を始めさせていただきます。私は、本日の進行を務めます、副局長の似内と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは初めに、県北広域振興局長佐々木から、御挨拶申し上げます。

2 挨拶

【佐々木局長】

皆様こんにちは。今日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

この懇談会ですけれども、岩手県北に位置する二戸・久慈圏域の県の計画を皆さんと、今後、目指すべき方向について、様々な立場からご意見を伺いながら議論をするために年2回開催しているものであります。

今年、新たに11名の方が構成員に御就任いただき、昨年度から継続していただいている4名の方と共に御参加いただくこととなりました。改めて、御承諾いただきましたことに感謝を申し上げます。

県では、岩手県民計画という総合計画がございます。これに基づきまして様々な地域振興施策を推進しておりますけれども、今年は県全体で人口減少対策、それからGX（グリーン・トランスフォーメーション）、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、安全安心な地域づくりの4つを重点事項として推進しております。

振興局といたしましても、少子高齢化や社会減の進行などにより、地域産業の担い手の確保が大きな問題となっておりますけれども、地元就職者の確保や職場定着、U・Iターンや移住定住の促進に取り組んでおります。また、管内には、開業40周年を迎えた三陸鉄道や三陸ジオパークがございます。最近話題となっているみちのく潮風トレイルもございます。二戸地域には、御所野遺跡もあり、今年3周年を迎えます。それから、奥南部の漆など、世界からも認められた、認められるような、豊かな資源がございますので、こういった資源を効果的に使いながら、地域に根差した産業振興、地域の活性化に向けた取り組みを推進しております。

こうした取り組みを進めていくためには、地域振興の主体として市町村や住民の皆様と一

緒に取り組んでいくことが、とても大事だと考えておりました、県も、皆さんと情報共有を図りながら、一層の連携協働のもとに取り組んで参りますので、御支援と御協力をいただければと思っております。

今日は、今年度第1回目の懇談会ということになりますので、県北広域振興局が進めている主な取り組みについて説明をさせていただきます。その後、皆様とともに意見交換を行い、限られた時間ではございますけれども、皆さんからそれぞれの立場で、忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 構成員の紹介

【似内副局長】

続きまして、令和5年度末の任期満了に伴い、新たに就任いただいた構成員の方もいらっしゃいますので、私から、お手元の名簿に従い、本日御参加いただいている本懇談会の構成員の皆様をお1人ずつ御紹介させていただきます。出席者名簿をご覧くださいと思います。

合同会社岩手ライフサポート 住宅型有料老人ホームみんなの家 業務執行役員 阿部 歩様です。

【阿部構成員】

よろしくお願いいたします。

【似内副局長】

株式会社岩本電機 代表取締役社長 岩本 崇司様です。

【岩本構成員】

よろしくお願いいたします。

【似内副局長】

九戸村食生活改善推進員協議会 会長 桂川 祥子様です。

【桂川構成員】

よろしくお願いいたします。

【似内副局長】

有限会社丸與木材店 代表取締役 熊谷 盛様です。

【熊谷構成員】

よろしくお願いいたします。

【似内副局長】

総合会館 瀧村屋 代表取締役 高橋 静子様です。

【高橋構成員】

よろしくお願いいたします。

【似内副局長】

株式会社久慈平岳牧場 代表取締役社長 田村 憲史様です。

【田村構成員】

よろしくお願ひいたします。

【似内副局長】

Webでの参加になっております。

二戸市観光協会専務理事 カシオペア環境研究会 会長 田家 亘様です。

【田家構成員】

よろしくお願ひいたします。

【似内副局長】

久慈地域卓球バレー協会 会長 新里 周一様です。

【新里構成員】

よろしくお願ひいたします。

【似内副局長】

一般社団法人久慈市観光物産協会 事務局次長 廣内 留美様です。

【廣内構成員】

よろしくお願ひいたします。

【似内副局長】

株式会社十文字チキンカンパニー 常務取締役 環境部長 古館 裕樹様です。

【古館構成員】

よろしくお願ひいたします。

【似内副局長】

株式会社Dai0Jou 代表取締役 松川 美穂子様です。

【松川構成員】

よろしくお願ひいたします。

【似内副局長】

なお、NPO法人地球のしごと大學 つちのこ保育園 園長 高浜 菜奈子様は、本日出席の予定ですが、現時点ではまだ来られておりません。

また、株式会社一戸ファッションセンター 代表取締役 中村 敏昭様、有限会社中村一郎商店 代表取締役 中村 富美子様、洋野町漁業協同組合所属 岩手県指導漁業士 吹切秋則様の3名につきましては、所用により本日御欠席となっております。

続きまして、県の出席者について紹介させていただきます。

県北広域振興局長 佐々木 哲です。

【佐々木局長】

改めましてどうぞよろしくお願いいたします。

【似内副局長】

二戸駐在副局長 阿部 博です。

【阿部副局長】。

緊張感が伝わってきますので、皆さんリラックスしていきましょう。よろしくお願いいたします。

【似内副局長】

改めまして私、久慈におります副局長の似内です。どうぞよろしくお願いいたします。

その他、岩手県北広域振興局の出席者につきましては、時間の都合上、お手元の名簿で御紹介ということでお願いしたいと思います。

議事に入る前に、構成員の皆様方に事前に配布した資料、これは御持参していただけたでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の4、議題に入らせていただきます。

この本懇談会の設置要領の規定によりまして、懇談会は局長が主宰すると定めておりますので、以後の進行につきましては、佐々木局長が行います。

4 議事

【佐々木局長】

それでは、次第の4、議題に入ります。初めに、令和6年度県北広域振興局の主な取組について事務局から説明いたします。その後、皆様と意見交換を行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、説明をお願いします。

【山本企画推進課長】

〈資料1～3の説明〉

【佐々木局長】

それでは、構成員の皆様から御発言をいただきたいと思います。進め方でございますけれども、今、説明いたしました内容についての所感、御意見、御提言等、短い時間で恐縮ですが、お一方3分程度で御発言をいただきまして、それぞれ局の担当の方から関係する取組についてコメントを差し上げたいと考えております。一通り御発言いただいたのちに、局のコメントですとか、他の構成員の御発言等を踏まえまして、何か追加補足で御発言したいことがございましたら、また繰り返しお伺いするというような進め方をさせていただきます。

それでは、恐縮ですが、名簿順にお願いいたします。阿部さんお願いいたします。

【阿部構成員】

住宅型有料老人ホームみんなの家の阿部といいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今説明いただいた資料の中でもありましたけれども、少子高齢化ということが、岩手県の県北地域では大変問題になっているというのが話題に上がっているということではありますけれども、私自身子育てをしている現役世代ということで、その辺からお話させていただきますと、学校の先生方とお話する機会も多いわけですが、圏域外から来た先生方がよくお話しされるのは、大人にとって非常に過ごしやすい地域であること。落ち着いていて、ちょうどいい。大人にとってちょうどいい。という、非常に住んでいてはなかなか気がつかないんですけれども、外から来た方々からするとそういった意見があるんだなということを何回か耳にする機会がありました。

少子高齢化と言いますと、非常にネガティブにとらえがちではありますが、大人、また高齢の方というか、60代70代の方が大変活躍している地域といえるのではないかと私はとらえております。特に私がおります福祉の業界では、60代70代で現役で働いている方が大変多くいらっしゃいます。生きるすべであるとか、生活の力とか、あと経験、人生経験が大変豊かであり、非常に戦力であり、頼もしい存在といえると思います。また、我々、子育て世代にとって、経営陣にとっても、子育て世代を助けてくれる非常にありがたい存在ではないかというふうにとらえております。

ですので、先ほどの資料にもありましたけれども、どうしても都会に住んでみたい、人口が多いところで自分の力を試してみたいという若者がたくさんいるのも、それもとてめえ気持ちもよくわかりますし、前年のこの場でもお話ししましたけれども、そういう方々は、ぜひ背中を押してあげたいというか、無理にここにいなさいということでもないと思いますので、都会を見てもらうということも必要ではないかと思っておりますので、戻ってきたくなる大人が活躍している地域を目指してもいいのではないかと個人的には非常に思っております。子育て支援と言いましても、市町村ごとによるので、どうしても先の野田村の件もありましたけれども、市町村ごと支援がバラバラであったりとかするので何とも県としても、なかなかちょっと何て言うか、言いにくいというか、統一しにくいところもあるとは思いますが、ちょっと視線を変えて、大人が活躍できる地域、そして活躍している大人の姿を子供に見せることで、岩手に、県北地域に戻ってきたいというふうを考えていてもいいのではないかなと個人的には思っております。

日頃、高齢の方の支援をしている中で、やっぱり免許返納後の生き方、それぞれの生き方、ここにいらっしゃる方は大体の方、普通免許で自動車移動されているとは思いますが、それを返納しなければいけなくなったときに、自分の子供たちに免許を返しなさいと言われた後に、どう生きるか、想像できるかなというところですね。生きがいですとか、社会での役割とか、そういったものが想像できるか、保っていただけるかどうか。高齢の方が多

い地域において、この辺りを非常に支援していくべきではないかなと思っております。買物の件もちろんそうです。移動手段の支援も考えていってもいいのではないかなと思えます。どうしても、高齢者ドライバーの事故等のニュースがたくさんある中で、分かっておりますけれども、自分に置き換えたときに、そのあとどう生きるかっていうところを、もっと具体的に県として、広い地域ですので、自動車が移動手段においてはとても大きい。それがなくなったときの生き方という部分においては、考えていってもいいのではないかなと思っております。それが、高齢の方の活躍できる期間をもっと長くするのではないかなと思っております。

盛岡が大変注目された年がありましたけれども、あれもかなり大人目線というか、落ち着いた目線で注目されたなというふうに個人的には思っています。そういった魅力を県北地域も十分持ち得ていると思えますので、どうしても少子高齢化という、子育て世代や子供の数をというふうになるとは思うんですけれども、大人が輝いている姿というか、そういった部分にも注目していただいてもいいのかなと思っております。私からは以上です。

【佐々木局長】

ありがとうございます。私もここに来てから、いろんな人と会うんですけど、やっぱり地域が素晴らしい。ネガティブな感覚を持っている人って非常に少ないと思っております。県北広域振興局とか県北って「北」がつくんですが、「北」っていう言葉は南に対する北。南と比べて、行政、役場の方々とか、ちょっと立ち遅れているみたいな言い方をされる方いるんですけど、やっぱり地域に住んでいる方ってそんな感覚は基本的にないということで、やっぱり一生懸命頑張ってるし、すごい活気を持っていらっしゃる姿が非常に印象的だなと思っております。先ほど子供に背中をみんなきちんと見せて、戻ってきてもらえるという話がありましたけれども、どうしても1回出られるということは今の時代、しょうがないと思うんですけど、やっぱり戻ってきたいっていうところを見せるのが大事です。この間、野田村の記事が新聞に掲載してありましたが、一面に農業者でIターンして来られた方のことが掲載されたんですけど、その方は地域のお年寄りが元気だということに着目して、地域のお年寄りを雇用者として使って頑張ってるしやいますよね。そういうのも非常に大切な取り組みなんだろうと思います。

公共交通機関が減っているという状況はありますが、そこはやっぱりきちんと確保しながら、そういった生涯現役で頑張りが続けられる地域を作っていくのは非常に大事かなと思えました。またご意見あったらお願いします。続きまして岩本さん、お願いします。

【岩本構成員】

皆さんお疲れ様です。洋野町で電子部品の製造をしております岩本と申します。

私は、小さい会社ながら経営していく中で、いろんな事業をやろうとするんですけども、必ず成果物っていうのを最初に設定すると思うんですけども、そもそもこの懇談会の成果物っていうのは何かあっているのは、ちょっと見えない部分があります。

今ここにいろんなところからいらっちゃって、例えばこれが令和7年度の事業に向けてのアイデアを出して、久慈管内で必ずこういう事業化をしますっていうのが成果物であれば、アイデアはたくさん出ると思うんですけども、ただ検討しますって言ったら、この時間は一体何なんだっていうところもあると思うんですよね。例えば、2019年からということで、5年経ったと思うんですけども、県でもいいですし、この久慈管内でもいいんですけども、この5年の成果物っていうのは何かあるんでしょうか。それをちょっとお聞かせ願いたいなというのが1つあります。5ページの出会いのイベントとかやっていると思うんですけども、何回やってどのぐらい成功されているのか、そもそも参加者がいるのかとか、やったっていう結果はあるんですけども、何回やってどのぐらい成功して、参加者がいるからやる、やるのかやんないのか、そもそもこの事業があっているのかどうかといったところが、お聞きしたいなっていう部分はあります。

それから自然減ですが、書いてある通り、これしょうがないと思うんですよね。緩やかに減らさなければならないというふうに思っているんですけども。やっぱり今まで活動いろいろこう5年間もそうですし、何十年もされていると思うんですけども、例えば、全国で、私も結構調べたんですけども、東北って結構難しいんですけども、全国で人口が例えば増えているところですか、もしくは人口減少が緩やかな市とか町があると思うんですけども、その辺の分析とかってされているのかなって思っています。自分のところを分析するというのは、当たり前であって、どこかしらは絶対成功されている事例があると思うんですよね。その市に行って視察をして、一番簡単なのは真似るのが簡単だと思うんですよね。その施策を自分のところでやってみるだとか、そのフィードバックの部分で失敗することもあると思うんですけども、失敗したらほら見ろって言われるんですよね。だけど、やっぱり3年ぐらいは同じ事業ってやんなきゃいけないかなと私は思っています。なので、失敗からのフィードバック、成功してよかったね、じゃなくて失敗からのフィードバックをして、やった方がいいかなと思いますし、もし仮に、例えば隠岐の島とかプロジェクトXでやっていましたけども、そういったところに行く機会ってなかなか予算つけられないと思うんで、大変だと思うんですけども、例えばそこから先生とかを呼んで講義を受けて、どういうふうに再編していったのか、復活していったのかっていうのを、勉強すると言ったらおこがましいんですけども、というのがいいのかなというふうに思ってやっていました。

それから、今、いろんなデータを見させていただいた中で、何でしょう。私は製造業ですけども、例えば、直近の久慈関連誘致企業っていうのはどのぐらいあるのかなというふうに思っていました。例えば北上市であればキオクシアさん、金ヶ崎はトヨタ自動車さん、釜

石・遠野の SMC、秋田県の横手には東海理化さんとか、宮城県大衡村は小糸製作所さんとか、村でもこういった企業誘致ができていっているなどというのは思います。久慈管内になぜできないのかなっていうのも、1つ思いもありますけど、逆を返せばそんなモンスターが来てしまうと、我々のような製造業は一気につぶされてしまうので、こない方がいいなっていう思いも反対もあるんですけども。ちょっと矛盾している部分があります。

それから、先月のクローズアップ現代、地方創生というテーマで私も見ていましたけども、やっぱり魅力がない会社が多いって言われちゃうんですね。こんなにいっぱい魅力ある会社さんあると思うんですけども、先ほど言った野田村さんの事例もあると思うんですけども、じゃあ野田村ができていて何でこっちはできないんだろうか、お金が足りないのかとなってしまうんですけども。私は、先ほどから申している通り製造業ですので、1次産業のたくさんいろんないいもの、海のもの、山のものもたくさんあればいいと思うんですけども。私のような2次産業の製造業の方にも、支援いただけるとありがたいかなというのが、私が選んでいただいた中で思っていたところでございます。ありがとうございました。

【佐々木局長】

はい。ありがとうございました。成果物が何か非常に大切な視点だと思います。

おっしゃる通りでやっぱりアイディアは、たくさんお寄せいただきたい。テーマというのは地域振興になる大きなテーマが柱としてあります。ただ、ポイントを押さえて、様々な分野の方がいらしておりますので、自分の立ち位置からこういうことが課題だと、これを提案したいということがあればどんどんお寄せいただきたいと思います。残念ながらその我々だけで決められる予算はほとんどなくて、様々検討した上で予算化されますので、これまでにやった中で実現したものについては皆さんにきちんと知らせるっていう形がやっぱり正しいだろうなと思ったところです。

それから成功事例につきましては、様々検討している団体ですとか、国の機関もあります。県でも専門的にそこを収集・分析しているポジションがありますので、そういったところとの情報の共有を進めていくことが大事です。ただいろんなところから、いろんな情報をもらうと全く同じってことが絶対なくて、地域の特色をどうやって生かしていくのかっていうところにどうしてもいくというような傾向があります。

あとは様々な事例を通して、知事なんかよく言っているんですが、隠岐の島の海士町という島があって、そこは2000人ぐらいの島があるんですけど、あそこ人口増えているんですね。そういったところが元気でやっけてるっていう事例もあったり、あとはその人口密度が、多い方がいいわけではなくて、例えば、可住地密度が200人ぐらいのところは実は適当で、実はヨーロッパなんかはドイツなんかでも200人ぐらいの1平方キロメートルあたりぐらいの密度ぐらいが適正なんじゃないかということを知事がおっしゃっています。そういったと

ころ、いろんな地域のよさを発揮できるようなことを共有をしながらどうやって地域づくりをするのかっていうのが、地域で共有できていかないと、なかなか前に進まないと思いますので、そういった事例をみんなでやっぱり共有するってことは、大事ななというふうに思っています。

あと、誘致企業のお話がありました。久慈地域には、残念ながら誘致企業はほとんどない。北上にできたキオクシアさんのような企業が来てしまうとそこに全部人が持っていかれて、とんでもないことになるというのはおっしゃるとおりで、私もここにきて思ったんですけど、結構すごい企業がたくさんある。世界に打って出ている、あとは世界的な標準の雇用の仕方をしているところ。そういったところの発信をやっぱりきちんとしていって、地域の企業でやっぱり盛り上げていくっていうのがまず1つの柱になると思っています。そんな発信をできるだけ我々としてもしていかないと、地域のよさに気がつかれないうちに、他にいつてしまふということの方がやっぱり危機感が大きいという状況があります。様々ご意見あると思いますけども、ご意見いただきながら、検討を進めていければと思います。

結婚対策について、担当から御説明します

【千田保健福祉環境部長】

結婚支援事業につきましては、令和4年度から行っております。県北地域ですね。二戸と久慈の地域を対象として行っております。4年度につきましては年1回、5年度につきましては年2回、それから今年度も、年2回開催を予定しております。

4年度の実績でございますけれども、男性9名、女性7名の参加をいただきまして、3組のカップルの成立ということになっておりますし、5年度の1回目ですが、男性7名、女性5名参加で4名のカップル、それから2回目につきましては男性8名、女性6名の参加で3組のカップルの成立ということになっております。

ただその後ですね、一応3ヶ月ぐらいを目途に、その後どうなっているかというのを内々に情報収集しますとですね、対面で会うということまでいかないというような事例がありましたので、今年度2回を予定しておりますけれども、そういったことも踏まえまして、せっかくカップルになったのであれば、ぜひ会うきっかけも作ろうということで、カップル成立した場合にお食事券を差し上げて、対面で会えるようなというような工夫を今年度取り入れて開催をするということにしております。

【佐々木局長】

ありがとうございました。また何かありましたらよろしく申し上げます。

次は、桂川さん申し上げます。

【桂川構成員】

九戸村食生活改善推進員協議会の桂川と申します。よろしくお願ひいたします。

資料の中で、九戸村の自殺対策については、お話をいただいていたので、そちらの方は対応して計画しようと思っていました。

少子の方ですけれども、九戸村全体で去年あたり6名かな。出生数がないんですよ。それで亡くなっている方が約100名で。1割は産まれているか産まれていないかというような、そういう状態でこれも資料にあるんですけども消滅しなければいいなと思っております。消滅というのもあるでしょうけども、そういう危機感を感じているところです。その少子化もそうですけれどもその都会に出ていくというのは、私も3人、娘がいるんですけども、地元にいるのが1人もいないので、もう皆、嫁に出ました。それにはもう全然貢献してないし、どれかは戻ってきてくれればいいかなと。幾らでも1人でも2人でも、村の方に貢献できればと思っておりますけども、行ったものはそんなに簡単には戻ってこないかなと思って本当に恐縮しております。

皆さんも同じだと思いますけども、あと高校に関しても、1校、辛うじて、県立高校の伊保内高校っていうのは、ありますけども、今、県外の方から6名かな。なんて言うのかな、留学っていうんですか、そういうのでいらっしゃる方もありますので、そういう方を大事にしながら地元に戻るといふか、定着していただければいいかなと思っております。

それから、交通機関のことなんですけども、今の九戸村でデマンド交通っていうのを始めたんですけども、私達みたいな高齢者は、私はまだ免許持っているからいいんですけども、必ず申し込まなければ駄目だ、電話で申し込んだ際に最初に繋がる場所が名古屋とかって言うていました。だから、言葉が通じないんです。私達みたいに年取ってれば高齢者であれば、方言で、あそこって言うても、自分たちでは分かったつもりでは言うてはいるんですけども、相手の方に伝わらないっていうそういうのがありますので、この前もそういう会議のときに私も提言したんですけども、交通機関に乗るっていうのは、若い人たちじゃなく、私達みたいな高齢者がほとんどです。もう少し高齢者にやさしいっていうのかな、そういうその対策をとっていただければなと思うようなところがあって、高齢化ってその名の通り、年寄りだけが増えていきますので、私たちの希望としては、高齢者に過剰な支援っていうのは、あれなんですけども、適度な支援っていうのかな、思いやりっていうのかな、そういうのがいただければいいかなと思っております。

この自然減対策、社会減対策が極めて必要という市町村に載っていますので、こういう皆さんの方からご意見を聞けば、わかると思うんですけども、どういう対策本当に具体的な対策っていうのは、どういう対策がいいのかなっていう、その具体的な対策ですね。そういうのをご報告いただければ、幾らかでもですね、お役に立てればいいのかなと思っておりますので、そういう御助言もお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【佐々木局長】

ありがとうございます。少子高齢化については、娘さんがいらっしゃるということであれば、立派なお母さんでありますので。戻ってくることもあるかもしれませんが、ぜひ九戸の素晴らしいところを発信していただければいいかなと思います。

伊保内高校は留学されてこられる方がたくさんいて、最近、高校の入学生が増えているんですね。危機感に基づいて始めたかもしれませんが、やっぱり情報発信の仕方がすごくうまくいっているのだと思います。同じような取り組みを葛巻高校もやっていますよね。非常にいい取組だと思っていて、高校の魅力や地域の魅力の発信につながっているのではないかと思います。

公共交通機関については様々課題がございます。言葉が通じない問題については、もっと担当者のところで工夫して欲しいなとも思いましたので、ご提言いただきながら、役場とかと一緒に考えて良ければいいかなと思います。

また次に、最後に何かありましたら、ご発言いただければと思います。

続いて熊谷さんお願いします。

【熊谷構成員】

丸與木材店の熊谷と申します。

私の方からは、木材・林業ということで林業の紹介というか、活用というところの話をできるとして参りました。うちの会社では紙の原料とバイオマス発電所の燃料として使われる木質のチップの製造をしております。同時にチップ原料調達のために、素材生産といいまして、山で木を切って、出してくる原料調達の仕事もやっております。それから少しではありますが植林とか、それから育林というか、循環可能な林業を展開していきたいなというふうに思いながら少しずつやっているところです。主に久慈管内の山林から原料調達しているんですけども、安定的な山林の確保っていうのが保証されているわけではなかなかなくてですね。森林経営管理制度というのがあるんですけど、まだ理解してない部分があるんですけど、この概要っていうのを読みますと、手入れの行き届いていない森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託を受けて、林業経営に適した森林は、私のような林業経営者に採択、適さない部分は市町村が公的に管理をする制度というふうにあります。ここ最近、うちの会社にも、一般の方から問い合わせが増えているのが、例えば、親から山林を相続したけれども、どうしたらいいかわからないとかですね。自分の山林土地がどこにあるかもわからないっていう相談を非常に多く受けております。できる範囲で対応しているところもあるんですけど、物理的に無理があるっていうのは、そういう制度が始まっているので、市町村の方に紹介しますよというふうなお話をしたりはしています。ですから一般的にはまだまだこの森林経営管理制度自体を知らない方が多いように思いますので、これをもっと知ってもらえ

るようにPRしたりとか市町村さんの意向調査等頑張ってもらいたいというふうに思っています。この取り組みがうまく進めば一体的な管理のもとで、二酸化炭素の吸収源を増やしたり、持続可能な林業経営の基盤になる。私どもも非常に助かるというような感じになってもらいたいなというふうに期待しているところです。持続可能な森林があったとしても、山や工場で働く人がいなければ、それを継続していくことができませんので、新たな人材確保が課題だということですね、久慈管内の木材業者が集まって、『久慈地方「木の仕事」協議会』という団体を立ち上げてそちらの方にも参加させていただいて、活動しているんですが、県の林務部さんから大変なご支援をいただいて活動しているところです。これは新規就業者の確保とか育成に取り組んでおります。実際にここまで平成29年から活動して参りまして、30名以上のこれまで新規採用がありますので、成果は出ているのかなというふうに思っております。私の会社にも今年度岩手林業アカデミーの卒業生を1人迎えたところです。人口減少によって、数少ない新卒者の取り合いというかですね、そういった現象になってくるのかなという部分もあるんですが、職場環境を整えて、せっかく入ってもらった若い子に定着してもらいたいなというふうにも思っています。

うちの会社の話ばかりであれなんですけど、定年とともに高齢者の継続雇用っていうのも必要かなと思います。去年で退職したんですけども、90歳まで働いていただいた方がいらっしやいました。まだまだ働きたいっていうところで、去年で免許返納してそれと同時に仕事を引退したいということで去年、退職しました。また、それに伴って今年から72歳の方を雇用させていただいています。これまで大工さんやったり、棟梁さんをやったりとか、経験豊かですね、その技術的な部分とかその構造的な部分っていうのは、後輩の社員たちにも良い影響をおよぼしている存在になっているとすれば、こういった幅広い年齢層の雇用の継続をしていきたいなと考えています。以上です。

【佐々木局長】

ありがとうございます。木質バイオマスですとか、この地域はやっぱり再生可能エネルギーの宝庫みたいなものですよね。風力発電もたくさんありますし、太陽光発電もあります。今久慈沖では、洋上風力を活用しようという動きもあります。グリーントランスフォーメーションという世界的な価値のもとになりたっている産業だということで、それを支える林業っていうのは、今どんどん大規模化が進んだり機械化が進んだりして、実は昔からある衰退産業ではないと、今そういうふうに使われていて、これからの発展産業なんだろうと、10年前とまるでやり方が違うと言われていています。ですのでそういったところをPRをしていって、力がない女性でも、携われる仕事ってたくさんある。そういったところに女性進出が進んでいくと考えられ、九戸村では木工女子部の自伐型林業に取り組む方々が入ってきたり、地域おこし協力隊で入ってこられる方もたくさんいます。自信を持って世界的な価値に貢献する

んだというところを前面に出してですね、人材募集を行っていくというのは1つの方法だろうなと思っております。それではこの件に関して担当からお願いします。

【高橋林務部長】

林務部の高橋と申します。ありがとうございました。

熊谷さんの方から経営管理制度とかの話がございましたので、あと担い手の確保の関係についてもお話させていただければと思います。

経営管理制度につきましては、お話があった通り、手入れが行われてない管理されていない森林を担い手、事業体につなぐ制度というものになっておりまして、市町村が主体になって行っているものでございます。森林所有者への意向調査っていうのを行うことになっておりまして、今、管内の全市町村では、森林所有者に対するアンケート、意向調査は着手しているような状況です。それを集めまして、手入れをして欲しいのか、或いは自分でやるよという、その辺の回答結果をもとに、市町村で改めてまた現地を調査して、林業事業体へつなぐというような取り組みをまさに今取り組みを進めているところでございますので、改めまして、周知とかその辺のところは図って参りたいと思っておりますし、困っている市町村がございましたら、局でも支援をして参りたいというふうに思っております。

あと担い手確保につきましては、熊谷さんがやっております『「木の仕事」協議会』の取り組みが着実に新卒の職員が増えているという状況になっておりますので、まさにこの取り組みを例にしまして、それが継続されるよう管内に広がるようですね、また皆さんと、話し合い、意見交換を進めながら、取り組みを考えて参りたいと思っております。引き続きよろしくお願いたします。

【佐々木局長】

続きまして高橋さんお願いします。

【高橋構成員】

軽米町の高橋と申します。

本当に少子高齢化っていうのは、もう軽米でも本当に何年か先は半分になるんじゃないかって非常に危機感を持っております。ただ、私もいろんな会議に呼ばれるんですが、今急に産めとかそういう子供の数が少ないからって言われてもそれは協力できないということです。ただ、今から新しく人を増やすってことは協力できないけれども、とりあえず今暮らしている地域にいる人たちが、みんなで「この町に暮らしてよかったね」って、そういうふうに思えるような町であって欲しい。いつもそれは心がけて、それは最低限、行政にもお願いしたいし、町内会皆でもそれはみんなで声をかけ合って暮らしてます。さっき阿部さんがおっし

やっていたように、これから先の人があそこにいずれ戻ってきたい、そういうような町であって欲しいなっていうのはいつも思っております。今日ここにいろんな方がおいでになるんですが、うちは軽米で観光業です。旅館ですので、そういう面でお声がけいただいたのかなあとということで、ちょっとそちらの方からお話します。

軽米町にも観光協会があります。そして、よそからのお客様をお呼びするのに何か目玉がないかっていつもそう思うんですが、確かに春になれば、フォリストパークのチューリップとか、部分的に何かこう、皆さんにこれはっていうようなものがあります。ただそれだけで人を呼べるかって言うと、全然その呼び込むほどの力はないんですね。ただ私いつも軽米にいて、軽米だけで考えると、それは非常に弱いんですが、こうして県北地域全体で1つのプロジェクトみたいなそういう1つの方向性を持ってもらえれば、よそからの人には非常に魅力を発信できるんじゃないかなあと思います。私今日来るときに「こはく号」を使ったんですが、バスの中に、IGRとJRバスと県北観光、三鉄で県北を1周するプランが書いてあってすごくいいと思いました。初めて見たんですが、こういうのもっともっと知ってもらえば、すごく県北地域全体でよそからの人にアピールするのがこんなにたくさんあるんだ。来る途中ずっとそのバスのチラシにずっと見入ってきました。ですから、岩手県内の県北地域の観光を考えたときに、各市町村で単独で取り組むんじゃなくて、東京の人から見ると軽米も九戸村も岩手県の「北」それしかないと思います。ですから、もう県北地域みんなで、この地域全体をこう1つの商品として売り込めるような、そういうようなプランがあればどうか、そういうふうな方向性を持っていければいいなといつも思っていました。よろしくをお願いします。

【佐々木局長】

ありがとうございます。交流人口の拡大はとても大事ですよ。いろんなところからいろんな人に来てもらって地域の良さを感じてもらえるっていう取組は大事だと思います。軽米さんには面白いコンテンツがありますよね。「ハイキュー!!」をめぐって来られる方もいらっしゃいますよね。

【高橋構成員】

今ですね、今年映画が公開されたことで、うちあたりでもインバウンドのお客様が入ってくるんですね。言葉が通じないので何とかかんとかやりながら。でも、「ハイキュー!!」目的お見えになる方は日本のことを勉強してきています。ですからもうピンポイントで、私が教えられるようなことはみんな分かってきていて、もう、予備知識として持ってきていますので、でも来ていただいて実際見てくれるとその方々がお友達の中で、発信してくれるので、非常に効果ありだと思います。「ハイキュー!!」に期待しています。

【佐々木局長】

非常に楽しいコンテンツだなと思っております。インバウンドが相当今入ってきています。みちのく潮風トレイルも外国の方がかなり入ってきています。そういった取組とかも含めて、いろんな広域での取組が大事かなと思って取組を進めているところです。観光について担当からお願いします。

【鈴木産業振興室長】

産業振興室長の鈴木と申します。

観光の取り組みについては、高橋さんのおっしゃる通り、1つの市町村で考えてしまうとなかなかいらしていただいたお客さんを十分に満足させられるかというところには限りがあるというところで、隣接するところとの連携が非常に重要になってきます。県でも様々取り組みしてはいますが、今年度からアドベンチャーツーリズムという形で、テーマ性を持った広域的な観光コースを作って展開していこうということを今、つい先日、ワーキンググループを立ち上げて動いているところです。それは、例えば県北でも、二戸と久慈、どうしても今までは二戸地域と久慈地域、それぞれの中で考えることも多かったんですけども、二戸も久慈もくっつけて、全体で広く動いてもらえるようなコースを作っていこうということを今考えているところです。おっしゃられたよそから来た方、ましてや海外の方からしてみれば、どの市にあるかということじゃなくて、この全体のエリアに何があるかということを目指してくると思いますので、そういったところを打ち出していけるような取り組みを進めていきたいと思っております。

【佐々木局長】

ありがとうございました。続きまして、田村さんお願いします。

【田村構成員】

久慈平岳牧場の田村です。うちの牧場は牛乳を搾っている牧場です。農林漁業の方で呼ばれたのかなと思っていました。人口減少ということで、自分は学校のPTA会長とかもやっていますので、いろんな点からちょっとしゃべらせていただきたいなと思って、今考えたんですけども、人口減少に伴って、今合併等々で久慈市もどんどん動いているんですけども、自分がPTA会長をやっているところもあと何年かで合併になるということで、やっぱり人の減少は抑えられないのかなというところも分かります。自分は子供6人もいるので、自分は貢献している方かなと思っていました。ただ高校、中学、小学、保育園までいるので、ちょっと大変な面はあります。そこで阿部さんが最初にしゃべったんですけど、人が戻ってくるような、そういうような街にしていく。街を作っていくべきだっていうところで、やっぱり

子育て支援、高校までの無料化とか、そういうことを強く打ち出すことで、そういう人たちが帰ってくるんじゃないかなと。そういうふうに強く、そういう学校とかといろいろ関わっていく中ではよくいろんなPTAに関わってくる皆さんから聞くような話であります。

そういった中で、学校が廃校という形で空いていたりするんですけども、私は何年か前からいろいろ考えながらですね、いろんなところでしゃべったりもするんですけども、農林漁業みんな人手不足。とにかく人がいない中でそういう空いた学校を使って、就職支援じゃないですけど、さっきのデータにもありましたけど、一番人がいなくなる世代って高校卒業した後、大学から外に出てしまう。そういうところを少しでもやっぱり歯止めをかけることが、重要じゃないかなと思っています。それによってアルバイトをする子も出てきますし、そういうことがやっぱ地域をまわしていくのに絶対繋がっていくんじゃないかなと思っていました。農業界では新規就農者支援っていうのが目玉の1つであって、どんどんやっていくんですけども、農林漁業全体を周れるようなプラン、農業だけ林業だけ漁業だけではなくて、その学校に通うとすべての職種を体験できて、その中で自分が将来設計を作れるような。自分の子供が高校生と言いましたけど、自分は牧場やっているので、将来牧場やるんだろうなぐらいで思っているんですけど。そうじゃなくて周りの子たち、うちの子供と一緒にそっちの学校行ってみようかな。そういったプランがないんですよ。その将来設計がやっぱりまだまだ若いですし、やりたいことを探すっていうのは大変なんだなあとと思っています。そういった足がかりを最初に作ることによって、農林漁業に対しての魅力発信であったりとか、あとは体験してみるということで、久慈東高校さんでもいろんな職場体験させてもらっているんで、そういった中でも林業など、久慈東高校では、白樺の樹液を使って椎茸の佃煮を作って、県でも優勝していますし。そういったところですね。うちの子がここに関わっていたんで、宣伝しとこうかな。そういうところもあったんで、もっとそういうところの先を伸ばしてあげると、そういう人手不足のところに繋がっていくんじゃないかなと思っていました。

あとは、さっき高齢者の方のところでは交通環境っていう話があったんですけど、これは、本当にあるかどうかかわかんないんですけど、たまたま写真屋のおばちゃんに聞いた話なんですけど、久慈市で免許を返納したら、タクシーの割引カードのような毎回使えるカードみたいなものがもらえるというのもあったって、ただそれをタクシーで出したら、『このカードは何か』って。だからそういうのをせっかく作ったのであれば、もっと周知をして、みんながもっと使いやすいような、そういうふうに周知をするべきじゃないのかなと。ただ、そのおばちゃんに聞いただけなんで自分で確かめていない。もっと活用した方がいいんじゃないかなという話でした。

【佐々木局長】

ありがとうございます。子供6人も育てられ、大変素晴らしいことだと思いますし、その

子供たちがやっぱりお父さんの背中を見て、6人も育てられる経営をなさっているっていうところについては、相当そのインパクトがあると、とらえてもらえると思っています。今ワークライフバランスとか、農業出身者じゃなくても、都会に出てもそういった仕事とプライベートの子育てとかなんかのバランスをしっかりと取って生活をしたっていう思いっていうのは、かなり世界的な傾向もあって強くなってきている。それがやっぱり実現できるっていうのは、地域地方のいいところだと思っていますので、一旦外に出て、なかなかそのバランスが取れないという人たちが、地方に戻ってくるっていうことは、これから加速していく。地方に呼び込むための大きな考え方になってくるだろうと思っています。そういったところや田村さんの生活の様子とかも含めて、いろんなところでPRする材料になってくるんじゃないかなというふうに思います。田村さんの息子さんが都会に出ても、こんないい生活が地域にあるんだということを発信してもらって、しかもその思いを持って戻ってきてもらえたら素敵ですよ。そういった状況を作っていければいいのではないかと思います。

実は私も父親が専業農家でして、兄弟3人大学に行かせてもらって、私も地域に戻ってきたっていう状況があります。その気持ちよくわかります。そんな気持ちを持つ子供たちが育ててくれればいいなと思います。ありがとうございます。続いて田家さんお願いいたします。

【田家構成員】

よろしくお願いします。

まず、歩むべき姿というか目指す姿のところで、北海道という文字も入っているんですけども、何かそこに繋がるような計画がないなと読んでいて違和感を感じました。首都圏から北海道に行くお客さんを岩手でどうにか、寄ってもらうとかそういう意味も含めて、何かつけているのかなあと考えたんですけども、岩手から北海道へ行く方法、何か新幹線だとか何か、何かそういう取り組みがないと何かこう目指す姿にちょっとまた変わってくるのかなっていうところを違和感を感じました。あとは、前もそうだったんですけども、Iターン、Uターン、こちらいろんな促進するとか書いてありますけれども、担当する部署の方々が岩手県出身の方々に、どうしたら岩手に来てくれるかなんて考えているだけだとやっぱりいいアイデアが出てこないと思うんですよ。ですので、外からきて県庁に働いている人たちでグループを作るだとか、あと本当に先ほど岩本さんの意見でもありましたけれども、情報収集して他ですごい取り組みをしているところの情報を収集し、同じようなことでも岩手版に変えて企画するだとか、あと、そういうなんていうんでしょうね。なんかアイデアですね。何で魅力のあるところに人が集まるかっていうと、やっぱり魅力があるからっていうわけであって、魅力がないところがどうやって、そういうところからの人を取ろうと思ったら、画期的なアイデアぐらいしかないと思うので、何かそういう他の情報収集をして考えるというのが必要かなと思います。

あと、出会いイベントについて、こちらも目的が開催になっているので、開催するだけだったら誰でも企画してできるんですけども、そこの先というかもやっぱり考えて、結びつけるイベントを開催するとか、そういうふうにしていかないと、ただただ開催して終わっているような気がしますので、毎回出てくるということはやはり成果を上げられてないということだと思いますので、是非ともそういうふうにしていただきたいですし、あと、こちらの結婚支援を担当する部署というか、皆さん結婚してる方々がいる部署であったら、苦勞してないでしょうから、もう少し本当に30代後半で結婚してない方とかが多いところとか、苦勞している方じゃないと、そういう企画もいいものが出てこないと思いますので、何かそういうふうな工夫が必要かなと思ったところでございます。以上です。

【千田保健福祉環境部長】

ご意見ありがとうございました。開催の都度ですね、参加者の方からは、アンケートをいただきまして、次回の改善に向けて検討はしてはしておりますが、ただいま委員のご意見も踏まえまして目標のようなものをきちっと立てて、それを実現するような形で取り組むというようなことを検討したいというふうに思います。ありがとうございました。

【佐々木局長】

北海道の話がありました。この北海道は、縄文文化・世界遺産の関係があります。これの連携をできるだけ生かしていきましようっていうのは1つの考え方としてあります。それから地域に多いのは、北海道からの修学旅行生がツアーで来られている。そういった交流の基盤となるようなものがあって、それをできるだけ生かしていけないかということがあって、そういった趣旨も含めて施策には生かされているというようなことがございます。それから、ここは八戸経済圏ですよ。大きく言うと。八戸から北海道に行くフェリーがありますし新幹線もある。そういったこともうまく活用していくっていうのは、考え方として十分あり得るだろうと思っています。それから、あとは地域づくりには、「よそ者」っていうのは必ず必要です。おっしゃるとおりでございます。今はやっぱり、全県的に注目されているのは地域おこし協力隊っていう制度を利用して、他の県からこられている方がたくさんいらっしゃいます。いろんな魅力を感じてこられている方、それでいろんな魅力を感じて自分で何かいろんなことやってみたいと感じて来られている方がいますので、そういった感覚を生かしていくっていうのも大事かなと思っています。

実は県職員の中に他県の出身者が結構いますし、県北と全く関係のない職員が県北広域振興局に勤務している職員もおります。南と北ではやっぱりそれぞれの良さがあり、感覚的には実はそんな感じで見えなかったんだけど、すごいいいところだなって思うことがたくさんあって、そういった感覚もやっぱり地域の人達と意見交換しながら、十分に発信をしていく、

練り上げていくというのは大事だなと思っています。若い人たちの集まりをできるだけ作って、何かできないかなっていうことを今思っていて、そんな人達の交流を図りながらいろんな斬新な画期的なアイデアが出てくるような仕掛けを我々としてもしていきたいと思っておりますので、ぜひご協力いただければと思います。ありがとうございます。続いて新里さんお願いします。

【新里構成員】

初めまして。私は今、この久慈地域卓球バレー協会というのを立ち上げまして、立ち上げたきっかけは、2013年に東京大会の障がい者スポーツの大会のときに、県の福祉の関係の方から新しい何かスポーツをこの辺でやりたいんだけどもってという話をしたら、卓球バレーの話がありました。卓球バレーご存じの方はいらっしゃいますか。卓球台がありまして、センターにネットがあって、その下をくぐすもの。そして6対6で、ボールの下を打ち合う。エアホッケーみたいな感覚のものです。そんな感じで下を打って、基本的には立ち上がることやボールを押さえることもやってはいけません。とにかく単発で返すっていうのが基本的なルールでありました。とにかく誰でもやれるという障がい者の方も健常者の方も、高齢者も子供も同じルールでやりますので、一生懸命やってくれています。あと、目の見えない方、耳の聞こえない方、ボールがピン球っていつ中に入っているんですよ。ネットの下をくぐすので音が出るので、目の見えない方は手で合図してスタートします。そういった競技を今やっているんですが、今回は8月25日に市民体育館で卓球バレー大会の岩手県大会を行いますけども、これにはJICAの研修生たちが、今年は8か国8人来て、大体岩手県を1ヶ月ぐらいかけて研修するそうです。それを久慈に大体3日ぐらいいて研修していくようです。来ている方が大学の先生だったり、国会議員の方などが来ています。活動していますが、なかなか広げることが難しいと感じていますので、どうにか広げたいなと思って何とか頑張ってます。こういった話ですので、よろしく願いいたします

【佐々木局長】

ありがとうございます。先日、新聞にも載りましたよね。私もやったことがあって、県庁の保健福祉部にいたときに、部内のレクリエーションでやりまして、結構あれは障がいがあるなしにかかわらず、年齢にかかわらずできるスポーツで、非常に楽しいスポーツだなと思いました。交流にはうってつけのスポーツで地域の盛り上がりがつくれるコンテンツだと思いますので、振興局でも新里さんの取り組みをどんどん発信していければいいなと思いますし、ぜひその活動されているところを拝見して、そんな雰囲気も伝えていければいいかなと思います。振興局の中にも知らない人たちがいますので、その際はよろしく願いいたします。

続きまして、廣内さんお願いします。

【廣内構成員】

久慈市観光物産協会の廣内と申します。普段は、道の駅くじのやませ土風館の観光案内所で勤めております。

県の人口減少につきましてですけども、まずは自分のことよりも、子どもたちが今後安心してこの地域で生活できるかが一番心配になります。以前ニュースなどで取り上げられているのを見てとてもいいなと思った事例が、長野県南箕輪村のニュースを見たんですけども、自然豊かで子育てしやすい村ということで、若い世代の人口増加が多いそうで、平均年齢は43.8歳、村の人口の7割以上が移住者と、今注目されている地域があるんですけども、この県北地域にも同じような自然豊かで子育てしやすいという条件はそろっていると思っています。私自身は、高校卒業後に関東で就職しましたが、参考資料のアンケートの声でも多い、大都市圏で働いてみたいというただ単純な田舎者の理由ですね、スターバックスがあるところに住みたいとか、ドラマ「あまちゃん」でも春子さんが言っていましたけども、この田舎がすごいコンプレックスで、原宿行ってみたい渋谷行ってみたいって関東の方で働いてみたいって理由で、地元を離れたんですけども、実際に住んでみると、やはり岩手の環境の良さが忘れられなくて、都会では小さい子供がランドセルを背負って満員電車に乗っている姿を見たら、もう心が苦しくなって私も家庭を持ちたいなっていう夢があったので。もし実際関東で家庭を持ったら子供たちを育てにくいだろうなっていう印象を受けました。6年関東で勤めましたが、岩手に帰ってきて今の仕事に勤めております。

現在は、私も久慈市で子育てをしていますけども、まずは子供を遊ばせる環境、夏は海水浴、冬はスキー場などもありますし、子育てには恵まれている街だと1度離れて生活したからこそ、地元の良さを感じることができました。今観光案内所に勤務してますけれども、お客様からも「久慈市すごいいいところだね」という声も聞くことができまして、お客様からも日々教えられているところがあります。今人口が増えて話題になっている町は、大きなショッピングモールなど、都市部のような充実ではなくて、住んでいる人の口コミで、何だか住みやすそうと興味を持ってもらえることが多いようです。もちろん自然が豊かなだけではなくて、保育料の無償化や子供の医療負担など、先ほど野田村さんの成功事例のお話もありましたけども、多くの財源を必要とする施策ももちろん必要になると思いますけども、まずは人口減少、出生率の低下など、マイナスな情報よりも、住んでいる私たちが、地元をもっと良い評価をすることが、町の印象の繋がり、いい情報、評価の連鎖が広がって、少しでも人口増加に繋がってもらえればいいなと考えております。

また現在、私の仕事の話になりますけども、高校生の海女クラブとあって、夏休み期間を使いまして、久慈東高校さんに募集をかけて、小袖海女センターの方で、海女さんのお手伝

いをする仕事を夏休み期間中にしております。今年は11名の参加で、海女センターで毎日2人ずつ勤務をして体験をしてもらっていますけども、まず驚くのは、私も高校時代はそうでしたけども、久慈に住んでいながらも小袖に行ったことがないっていう子がほとんどです。あんなに綺麗な海があるのに見たことがない。実際に初めてアルバイトで小袖の方に連れていくと、みんな高校生たちがすごく喜びます。海女さんたちから、うにご飯をもらったり、いろいろ食べさせてもらうんですけども、こんないいところだったんだっていうことで、みんなすごくいい経験をさせてもらって夏休みを過ごしています。

Uターンを増やすためには、こういった高校生までのうちに、少しでもこの地元の良さを体験してもらい、体感してもらってという機会を増やしていけば、Uターンの方がもっと増えるんじゃないかと感じております。子育て世代として、岩手は恵まれている地域だと考えていますので、県内外の多くの方に知っていただきたいと感じております。以上になります。

【佐々木局長】

ありがとうございます。高校卒業して出て行かれる方は、どうしても多いですね。今大体大学の進学率が6割とか7割という世界ですから、どうしてもやっぱり一旦出て、外の空気を吸って地元の良さを知っている人が戻ってくる。あとは、そういう都会にいて、そういうものを求めている人が来るということになる。最近知事がよく言っているのは、昔は東京に行っても通勤地獄だとか、通勤するために1時間も2時間も満員電車に乗られる。東京なんか住むとこじゃないというような価値観が当たり前のようにあって、住むなら地方なんだと。それが今は都会に一極集中が進んでしまっているの、そういった価値観がやっぱりちゃんとわからない人が増えてしまっているのではないかと知事は最近おっしゃっています。そういった本来のもともある価値感をきちんと地域から発信していくってことはとても大事だろうなというふうに思います。海女さんの体験はすごい大事ですね。あまちゃん効果はすごい効果があるなと思っています。遅ればせながら最近、振興局でXやInstagramを始めたんですけど、あまちゃんと載せると視聴数が増えるんですよ。高校生の女の子が動画で出たXは、一気に何千件っていう表示回数になっているっていうような状況があります。そういったことがやっぱり自信に繋がったり良さの発信に繋がったりすればいいなと思います。観光振興の仕事は大変な仕事ですし、非常に大事な仕事だと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

続いて古館さんお願いします。

【古館構成員】

十文字チキンカンパニーの古館と申します。私は2期目で今回3年目になります。なかなかまとまった話ができずに、恐縮なんですけど、再生可能エネルギー担当ということで、まず

再生可能エネルギーに対して1つ、あと、今日メインになっている人口減少対策です。こちらの方に対して、専門ではないですが、感じているところをお話させていただきます。

まず再生可能エネルギー関連ですが、この県北地域はかなり太陽光が先行して、設置されていたように思うんですが、一時期に比べると太陽光の方は一段落して、今度は風力発電がメインで日々進んでいるように思います。この傾向はいい方向だとは思いますが、私は夜飲みに行ったりすると、工事業者の方とよくお会いするんですね。知らない方です。二、三度会うとお話したりするんですが、やっぱり仕事するためだけに来ている。なので定住しません。技術も残りません。ですので、やっぱり今はホテルだとか、夜の飲み屋さんにお金を落として一時的には当然いいことだと思うんですが、長い目で見るといつかはなくなるということ。ちょっと人口減少対策にも繋がると思うんですが、こういった仕事自体は残ります。ただそれを地元でやるか、外の人に来てもらってやるというのは、雲泥の差だと思うんですね。地元で技術を残して、もっとやりたい仕事や働きたい会社がないというアンケートがありました。こういった技術とか、仕事をしっかり残していくというのがやっぱり大事になってくるんじゃないかなというふうにごく感じております。再生可能エネルギーに関しては、まだまだポテンシャルが多い地域だと言われているので、一部には景観とか、あとは環境アセスメント、そういったところでいろいろ意見もあると思うんですが、しっかり進めていくべき方向かなと思いますし、流れるには間違っていないんですが、そういったところを本来であれば民間の人がもっと気づいてどんどん刺さっていくべきことかなと思うんですが、こう思いますよという支援をしっかりと県の行政の側からやっていただきたいなというふうに感じます。

あと2つ目の人口減少対策。直接ではないですが、うちの会社で一昨年、それまでは普通に総務課とかいう課だったんですが、社長の一声で総務幸福課にしろということで総務幸福課という課ができました。何をやるかっていうと、とにかく社員が幸せに会社で働ける環境を作る、提案する、それを実行していく部署。ということで始まっているんですが、その今の課長に県でこういったことをいろいろやっているけどどう思うかっていう話を参考までに聞いてきました。対策を生かして、さっき賛否両論あったようですけど、やっぱり岩手県がやっているっていう安心感はすごくいいなということで、やっぱり本気で考えている人にはいい取り組みなんじゃないかなというふうには感じているんですが。やっぱりちょっと敷居が高い。今マッチングアプリとかすごく簡単に取り組める。婚活、あとはマッチングする機会があります。そういったところを県でやるのが正しいのかどうかっていうのは分かりませんが、そういった信頼性があるところでやるマッチングアプリがあってもいいのかなと感じています。あと会社としてはそういったイベントだとか、アプリで活動するときのコストですね、費用を会社で負担しようかなという動きも出ております。これは会社としてもしっかりこの地域、人がいないっていう状況には絶対したくないという思いがありますので、

とにかく手厚く、出産祝いだとか、あとは産休育休明けに手当を出すとか、とにかく戻ってきてくださいと。あとは小中高、入学した子供に手当を出しますと。あと出会いの機会を増やすために、その都度でいいんですが同好会みたいな形で、例えばボーリング好きな人は、ボーリングに10人集まっていますと。それに対して、会社で補助を出しますと。そういった趣味の近い人が集まってやる出会いの場というのを会社で何とかバックアップしようっていうふうな動きを今しております。こういった県単位で見れば、1企業がやることは焼け石に水かもしれませんが、まずやらないよりはいいのかなと思って頑張っています。ぜひここに、同席されている皆さんの職場でもそういった、ちょっと無駄かもしれないけどっていう、ところをもうひと頑張りしてみるのもいいんじゃないかなと思います。あとうちの課長から独身者支援をしたらどうですかと話がありました。何となく悪者にされている。独身でいることが悪いみたいな感じになっているので、ポテンシャルはあるわけですね。その独身者を支援したら、もっとポテンシャルのある人が、県内、あとは県北地域に多くなるんじゃないですかと。部分的にはIターンとかUターンの支援になってくるのかなとは思っていますが、そういったちょっと逆転の発想的なところも持ってもいいのかなというふうに、うちの課長から意見されました。私の方は以上です。

【佐々木局長】

ありがとうございます。総務幸福課、素晴らしい名前ですね。やっぱりそこに就職すると、幸福になれるんじゃないかという非常に強い発信力を持った名前だと思いますし、経営者のスタンスがよく分かる名前だなと思います。基本的には今、ワークライフバランスを図っていきましょう、ジェンダーギャップをなくしていきましょうっていうのが世界標準の考え方なんですよね。でも日本って世界145か国中、118位だとかって言われています。それが今情報化社会に置かれている若い人たちが、見たらどう感じるだろう、この地域でいろんなところで言うんですけど。飲み会などに呼ばれるとこも多いんですが、男性の方が多いですよね。ああいうところに女性がたくさん出てくるような地域にやっぱりしていかなくちゃいけないだろうというふうに思います。十文字さんのような取り組みがやっぱり地域全体に広まっていくというのは、非常に大事なんだろうなと思っていて、一見すると無駄なことに見える取り組みもあるのかもしれませんが、地域で世界標準を作っていくというのは非常に大事なんだろうなと思います。

それからイベントへの支援がありましたけど、この間、振興局でフレッシューズカフェを開催しました。採用1年目、新採用の方を集めたんです。そしたら出てくるきっかけは会社の上司に言われたからっていうきっかけが多かったんです。でも、やってみたらとってもよかったですという話がありました。逆に言うと、会社に言われないと出ていくきっかけがなかなかなくて、それは会社の姿勢にもやっぱり繋がっているのだろうと思いました。そういつ

た交流のきっかけを作っていくと、やっぱり結婚ってギラギラしたようなものでなくても、いろんな交流が生まれて出会いが生まれて、いろんな地域でいろんなこと頑張っていこうという機運もたくさん出てくるんじゃないかなっていうヒントになるなど私は感じたところでして、そういった価値感を共有できるような経営者がたくさん出てきて、それが地域全体の取り組みにつながっていけばいいかなと思います。

子育てにやさしい企業だとか、働き方改革の認証制度のような制度があるんです。実は人口比で見ても、この地域はあんまり高くないんですよ。いろんなご事情があって経営が難しい状況とかもたくさんあるのかもしれないんですけど、今そういったことに気がついた企業がどんどんやっていて、そういったところがきっかけでどんどん伸びていくような企業になってくるのではないかと。地域全体でそういった発信がしていけると、地域の価値として非常に高い魅力になっていくような気がいたします。特に女性に対しては、かなり刺さる取り組みになるような気がしますので、ぜひそういったことについては振興局としても広めていきたいなと思っています。

お待たせしました松川さんお願いします。

【松川構成員】

皆さんの意見とか聞いているともうすべて出し尽くされたんじゃないかなっていうところで。待ちました。ようやく話せる時間なんですけど。

人の教育って何年後に成果が出るんだろうって。成果が出ない施策って、それ誰が考えてるんだろうって。やっぱりここにこう集まっている県の皆さんが、リーダーさんになってやってるんだろうと言ったときに女性が少ないよねって。この私達側にいる中では女性が半分ぐらいですか。男性と女性の特徴やそういうところの概念が変わってきている時代だっていうことを、まずは認めて自分をもっと楽にお仕事して欲しいなと思うし。あと久慈の魅力を知っている人が働いて、いや今久慈に行っているんだけどこんなことあったんだよっていう、一人一人がどれだけの人に伝えて集客するかじゃないんだろうかと。

私は起業して4年目です。看護師をしていました。だけど、人が健康でいるっていう体と心が丈夫であるのには、本当皆さんが言ってくださったように、やりがいとか生きがいとかがあって、大人がかっこよく見えて、おじいちゃん、おばあちゃんがすごく温かく見えて、弱さも何でも自分らしく出せるような環境がここにある。そういう中で育まれていくのかなっていうことを感じています。株式会社を立ち上げて、とにかく一人一人の健康になることが大前提なんだけど、仕事を創生していくっていう意識をいつから持ったらいいんだろうかって、すごく考えるようになりました。SNSとかを見ている、子供のうちからどうやったら自分が欲しいものが手に入るのか、それがお金だったらお金をどうやったら稼げるのか。ご飯が食べたいときはどうしたらいいのか。これ、高齢者がいるいっぱいいる今だから、す

ごい聞くチャンスなのに、その高齢の方々がどんどん減っていくのがすごい悔しくて仕方ないんです。いるうちに学んでおこなきゃいけない生きる知恵をたくさん持っている。お金を稼ぐことは、高齢の人はすごい得意だし、食べ物も作るのもそうだし、人をいい気分にして自分も喜ぶっていう、何か基本的なところだったりとか。そういうのを高齢の方々が生き抜いてきたからこそ知っているのを学べる、そんなふうに変えていくと何をやったらいいかっていう、一人一人が発想することで、どんどん人とつながって、そして、人を県北に呼び込んで、得意なことやっていけばいいのかなと思います。施策を立てる人が楽しくやらないと、引き継ぎたくないんじゃないですか、面白くないことって。いい計画を作るっていうところは、今日集まりの皆さんがこれからも楽しんで、夢中で自分の人生を過ごしていけばいい。健康に不安があったりするときにはどうぞ私のところに会いに来ていただければと思います。長くなりました。終わります。

【佐々木局長】

ありがとうございました。振興局長の最後のコメントのような発言をしていただきました。本当に大切なことですよ。楽しんでやる。地域が楽しい雰囲気を出していかないと、やっぱり魅力ってどうしても外に伝わっていかないんです。我々も地域のありのままを外に伝えたいと思うので、楽しんでいる姿をどんどん発信していくっていうことが基本になると思います。嘘は発信できませんので、ここは女性にやさしい地域、お年寄りにやさしい地域、若者にやさしい地域、そして若者が活躍できる地域、自分の自己実現ができる地域なんだということと、きちんとそうしたことを地域で働くロールモデル、キャリアモデルとして、各会社なり経営者が持っているっていうのが非常に大事なことだろうと思います。

二戸市長が言われるんですが、この農業の作物を作ると大学に子供2人ぐらいは行かせられるぐらいの収入は上がるのかとおっしゃいます。それはその通りなんです。やっぱり2人ぐらいは欲しいじゃないですか。その人たちがやっぱり60%70%進学する。大学に行っても、やっぱり戻ってきて欲しいわけですよ。そういったそれぐらいの地域の力があるのかどうかっていうのが試されていて、そういった力があるっていうことを我々としてもどんどん発信して、松川さんのような元気な姿をですね、我々としてもどんどん発信していくことが大事なんではないかなと思います。非常にかっこいい姿だと思います。ここに参加されている方々はかっこいい方々ばかりだと思いますので、皆さんのような姿を我々としても発信していればいかなっていうふうに、皆さんとともにですね、もっともっとかっこよくしていればいいのかもしれないですね。

かなり時間押してきましたけど、皆さん言い足りなかったことがあれば、一言二言添えていただければ嬉しいんですけども。いかがでしょうか。

【松川構成員】

早速ですが、明日野田村でプチ夜市が開催されます。ぜひ野田村の魅力発信について、プチ夜市にきた人は発信をしていただければと思います。よろしくお願いします。

【佐々木局長】

その他にありませんでしょうか。

【桂川構成員】

少子高齢化に繋がればいいかなと思っているんですけども、地域おこし協力隊の方が、私たちの食生活改善推進員を受講されて、入会してくれる予定になっていますので、それを期待して、定住して1人でも2人でも人口増加の方に勤めていただければなと期待しております。それを皆さんに協力隊の方にも感謝しながら、1日でも早く、九戸村の住民になって欲しいということ。どうしても、村が潰れるってということはないようにしたいですので、それを願っております。

【佐々木局長】

その他皆さん何かございませんか。よろしいでしょうか。

もし何かありましたらお気軽に振興局の担当の方に、メールでもお手紙でも結構ですので、お寄せいただくと我々の取組の励みにもなりますし、皆さんといろいろな取組を進めていく上でのきっかけ作りにもなるかなと思います。これからも、皆さんと一緒に取組を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは大体時間になりましたので、進行を事務局にお返しいたします。

4 その他

【似内副局長】

ありがとうございました。ちょうど予定の時刻になりました。

最後に次第の5のその他ですけれども本当に何か皆様よろしいでしょうか。

5 閉会

【似内副局長】

ありがとうございます。では時間もちょうどでございます。

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

次回はですね、11月中旬から12月上旬ごろ、二戸地区での開催を予定しております。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。